兵庫県産ソウムシに関する文献目録（2）

高橋 寿郎

38. 山本話丸（1954） 氷ノ山の昆虫
Natura（11）：7-9.
次のソウムシ類の記載あり（和名のみ）。
35. ムツモンツギリソウムシ。36. オシロヒゲナ
ガソウムシ＝シリジオヒゲナガソウムシ。37.クロ
オピヒゲナガトシブミ。38. ヒゲナガオトシブミ。

39. 近畿甲虫同好会編（1955） 原色日本昆虫図鑑。
甲虫編。増補改訂版（保育社・大阪）（担当 伊
賀正治）。
次の図説あり。
pl.61, f.1352, p.196. ウサモンツツヒゲナガソウム
シ Ozytomaus japonicus Sharp 1947.VI.兵庫県
岡。
f.1356. タマカイガラヒゲナガソウムシ Anthri-
bus kowani Yuasa 1945.V. 兵庫県豊岡。
f.1357. ワタミヒゲナガソウムシ Aracerus fasci-
culatus De Geer 1948.VI. 兵庫県豊岡。
pl.62, p.198, f.1376. オオゴボウソウムシ
Larinus griseopilosus Ruelofs＝L. melegaris Petri
上記学名だとミカクゴボウソウムシになる。
1948.VI. 氷の山。
pl.62, p.201, f.1403. ヒゲナガオトンシブミ
Paratrachelophorus longicornus Ruelofs 1948.VI. 氷
の山。

40. 大橋孝司（1957） 氷の山妙見山の昆虫
Natura（14）：41-45.
次のソウムシ類の記載あり（和名のみ、データ無
し）。
42. ヒゲナガオトンシブミ。43. アシガナガオトシブミ。
44. カシルリオトシブミ。

41. 岡本大二郎・安部凱裕（1957） 姫路地方のイ
ネソウムシ
日本応用動物昆虫学会誌1（4）：274-275。
巣のとくと姫路地方でのイネソウムシの生活
史、冬、春期における棲息密度の推移、罹の被害状
況、幼虫及び雌の死亡率と土壌水分の関係、罹の
播種、移植期と被害の関係等について述べられて
いる。

42. 山本謙丸（1958） 兵庫県氷上郡昆虫目録
氷上の自然 第3集 Natura 特別号 A5.
134p.（ref. p. 72-102）。
甲虫類は71科633種記録されており、ソウムシ
類は次のように記載されている。
p.100. ヒゲナガソウムシ科7種。ナガシヒゲ
ナガソウムシ。クロフヒゲナガソウムシ。アク
ミヒゲナガソウムシ。ウスモンツツヒゲナガソ
ウムシ。セミルヒゲナガソウムシ。タマカイガ
ラゾウムシ Brachylarsus＝Anthribus。ワツミヒ
ゲナガソウムシ。
オトシブミ科11種。ゴマダラオトシブミ。ヒメゴ
マダラオトシブミ。
p.101. ヒメコブオトシブミ。オトシブミ。ウス
モンオトシブミ。ウスアカオトシブミ。ヒメク
ロオトシブミ。ヒゲナガオトシブミ。ルイスアシ
ナガオトシブミ＝リュイスアシナガオトシブ
ミ。アシナガオトシブミ。カシルリオトシブミ。
チョッキリソウムシ科5種。ドロハマキチョッキリ
Bytiscus regalis Ruelofs＝Bytiscus（Bytiscus）
puberulus（Motschulsky,1860）。ファウストハマキ
チョッキリ。クロナガチョッキリ。ブドウハマ
キチョッキリ Aspidobytiscus＝Bytiscus（Aspi-
dobytiscus）。

ホソチソウムシ科1種。マメホソチソウムシ。
ソウムシ科44種。リンゴフキソウムシ。ヒラズ
ネヒゲボソウムシ。コフキソウムシ。マツト
ピソウムシ。アヒゲナガソウムシ。クロホシ
クチブトソウムシ。スギソウムシ。カキソウ
ムシ。コシロコプソウムシ Dermatotexus caesi-
collis Gyllenhall, ヒメシロコプソウムシ D.no-
dosus Motschulsky は学名かしたもの両者
同種でヒメシロコプソウムシ D. caesicollis
（Gyllenhall,1833）になる。シロコプソウムシ。ハ
スジカツオソウムシ。カツオソウムシ。オオ
ゴボウソウムシ Larinus griseopilosus Ruelofs

＊兵庫県甲虫相資料・344
学名からすればシラクモポポソウムシ、ゴポウソウムシ、シラクモポポソウムシ Larinus formosus= L. griseipilosus、フタキボソウムシ、マツアナキボソウムシ、フローシアナキボソウムシ Hylobius freyi Zumpt=クリアナキボソウムシ Dysacerus excultus (Roeflo,1875).

p.102. コクロアナキボソウムシ Hylobius cribatus = Dysacerus cribatus、マツキボソウムシ、オオシロオピソウムシ、オオソウムシ Sipalus hypocrila = S. gigas (Fabricius), コクソウムシ Sitophilus oryzae= S. zeamais Motschulsky、ココソウムシ S. sasaki Takahashi=S. oryzae (Linnaeus, 1796). トホシオサソウムシ、5種はオオソウムシ科、クロキボソウム、イチゴハナソウムシ、イネソウムシ、カシアナガソウムシ Alcides piceus= Mecysolobus、オオシロアナガソウムシ Alcides trifidus= Mesalicides、モンチボソウムシ、マツハラショウムシ Cryptorhynchius insidious =マツノシラショウムシ Shirakoshizuo insidious、マダラメカシボソウムシ、マダラアシソウムシ、クリシギソウムシ Curculio denipes この学名はコラシギソウムシになる、ミヤマシギザウムシ、ムシクザウムシ=ムシクサコバンソウムシ、クロダマソウムシ、オオノミソウムシ Rhynchaeus japonicus Fustachi=R. japonicus (Hustache)、カシワノミソウムシ、ヒメクロホラザウムシ=シガヤヒメキイゾウムシ、キスジアナガソウムシ Alcides flavosignatus=Mecysolobus.

柏原高校生物研究会が1958年7月に4回目の氷の山生物調査を実施した。その結果をまとめたものので、次のゾウムシ類が記録されている。
ムツモントシブム、オトシブム、ヒメオブオトシブム、フタキボソウムシ=アシナガオトシブム、オオジアナガソウムシ、カツオソウムシ、ハジカツオソウムシ、マツノシラボソウムシ、オオソウムシ、シロコブソウムシ、ヒラズネヒガボソウムシ、ブドウハマキチョッキリ。

44. 堀田 久(1959) 淡路島産甲虫目録(2). 兵庫生物 3(5) : 376-378.

28科87種記録されており、ゾウムシ科として7種が記録されている。
シロコブソウムシ、ゴポウソウムシ、オオソウムシ、クロキボソウムシ、トホシオサソウムシ、オジロアナガソウムシ、ツバキシガイソウムシ。

柏原高校生物研究会が5年間(1955～1959)毎年7月下旬～8月上旬3泊4日の調査に実施した調査で得られた甲虫類44科279種の記録である。
ゾウムシ類は次のとくと記録されている。
ヒゲナガソウムシ科3種、ヒメガラヒゲナガソウムシ、カオジロヒゲナガソウムシ、クロオピヒゲナガソウムシ。
オトシブム科10種、ヒメガラハトシブム、ヒメオブオトシブム、オトシブム、ウスモンオトシブム、ウスアカオトシブム、ヒメクロオトシブム、セアヒメオトシブム、ロウモンオトシブム、ヒゲナガオトシブム、アシナガオトシブム。
チョッキリソウムシ科4種、イタヤハマキチョッキリ、クチナガチョッキリ、チャイロチョッキリ、ブドウハマキチョッキリ。
ミツギリソウムシ科1種、ムツモノツギリソウムシ。
ゾウムシ科12種、カシアナガソウムシ、ヒラズネヒガボソウムシ、リンゴコウソウムシ、シロコブソウムシ、ハジカツオソウムシ、カツオソウムシ、フタキボソウムシ、フライアナガキボソウムシ Hylobius freyi Zumpt=クリアナガキボソウムシ Dysacerus excultus (Roeflo,1875).
オオソウムシ、オジロアナガソウムシ Alcides trifidus= Mesalicides、マツハラボソウムシマツノシラボソウムシ、シロヒメメゾウムシ Baris reini=シラホヒメメゾウムシ B. distalata (Solsky).

柏原高校生物研究会が1959年5月3日より3日間実記地帯での調査結果をまとめたもの。次のゾウムシ類の記録が含まれている。
ゾウムシ科6種、カシアナガソウムシ、オジロ
アシナガゾウムシ、マツツアアキゾウムシ、リンゴコフキゾウムシ、フタキボシゾウムシ、イチゴハナゾウムシ。

オトンブミ・チョッキリソウミ科8種、ヒゲナガオトシブミ、イタヤハマキョチョッキリ、ヒメクロオトシブミ、ヤドカリチョッキリ、ファウストハマキョチョッキリ、オトシブミ、ムツモンオトシブミ、アシナガオトシブミ。


日本産 Miarus 属ゾウムシの研究で2新種の記載を含む兵庫県の記録が次のとよくある。
p.191-192. Miarus kobanō Kōnō オオコパンゾウムシ Mayasan, 1♂, 1♀, 17.VI, 1951, Y.Wada leg.

48. 鈴木清明 (1960) 扇ノ山のソウムシ類

扇ノ山産ゾウムシ類の目的である。データはついていないが1958-1960年の3年間7月より下旬に実施されたもののようである。分類の方法が若干進んでいる。ここでは現在の分類法によって。
ミツギリソウムシ科1種。ムツモンミツギリソウムシ。

ヒゲナガゾウムシ科5種。クロヒゲナガゾウムシ＝クロオヒゲナガゾウムシ、ナガアシヒゲナガゾウムシ＝アシナガヒゲナガゾウムシ、チャマラヒゲナガゾウムシ、Tropideres latrotris = Acrymus、キノヒゲナガゾウムシ Caccro-rhinus oculatus = Euparis。マダラヒゲナガゾウムシ。

チョッキリソウムシ科4種。ドロハマキョチョッキリ、ファウストハマキョチョッキリ、クロイチョッキリ、ツチナガチョッキリ Rhynchites = Involutus。

オトンブミ科6種。ムツモンオトンブミ、ウスアカオトンブミ、セアカヒメオトンブミ、ヒメクロオトンブミ、ゴマダラオトンブミ、ヒゲナガオトンブミ。

ゾウムシ科13種。リンゴコフキゾウムシ、コフキゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシ、サビマルクチブトソウムシ＝サビマルクチゾウムシ、カツオゾウムシ、ハスジカツオゾウムシ、フレア

ナアキゾウムシ Hylobius freyi Zumpt＝クリナアナキゾウムシ Dycerus exsulcatus (Roelofs,1875),
ナガアアキゾウムシ Hylobius laeviceptris = Dycerus, コクロアアキゾウムシ Hylobius cribratus Roelofs＝オーリプアアナキゾウムシ Dycerus perforatus (Roelofs,1873), クロコブゾウ
ムシ、シラホシヒメゾウムシ Barisreinii Roelofs = B. distipota (Solsky), マダラメカケシゾウムシ、フ
トカツオゾウムシ＝ツツゾウムシ。

オサゾウムシ科1種。オオゾウムシ。

49. 梶尾雅昭 (1960) 扇ノ山の甲虫
   Natura (17): 33-35.

1959年7月26-30日間、扇ノ山で甲虫採集調査を実施した結果をまとめたものである。ソウムシ類は次のとおり記録されている(和名のみで)。
ゾウムシ科5種。アシキソウムシが学名がないのでこの和名ではよくわからない。アシキメゾウムシのことかもしれない。リンゴコフキゾウムシ、イチゴハナゾウムシ、オオゾウムシ、マルヒョウタンゾウムシ、ヒョウタンゾウムシの1種、カツオゾウムシの1種。

オトンブミ科4種。カシリリオトンブミ、ヒゲナガオトンブミ、ヒメクロオトンブミ、ウスアカオトンブミ。

50. 高橋 匝 (1960) 九州北昆虫目録追加 (第1報)
   Natura (17): 100-105.

次の記録がある。ハイイロチョッキリ(チョッキリソウムシ科)、マルヒョウタンゾウムシ。


日本産サルゾウムシ亜科の分類学的研究であり、22新種、1新変種の記載が含まれている。p.113に G.Lewis が Kobe で採集された標本に基づき Phylobius quadricornis Gyll. var. Roelofsi Hustacheと新変種を記載されている。現在では Phylobius quadricornis roelofsi Hustache マルメカゾウムシの亜種に取り扱われている。

52. 鈴木清明 (1961) 多紀郡のぞむし類
   兵庫県大学生物研究部本部 (2): 43-44.

表記のごとく多紀郡下で得られたゾウムシ類の
53. 足立 敦(1961) 扇ノ山探採記
_Natura_(18) : 29-35.
1961年7月25～28日の間、栃木県高等学校研究会
扇ノ山5カ年生物調査の2年目の調査結果をまとめるものですので、最後に採集品リストが示されている。
但し和名だけである。ゾウムシ関係は次のように
に記載されている。
ヒゲナガゾウムシ科、ヒゲナガゾウムシ科（種名不明）。
マドラフトヒゲナガゾウムシ。
オトシブミ科4種、ヒメクロオトシブミ、ヒゲナ
ガオトシブミ、ヒメクロオトシブミ、カシリリ
オトシブミ。
チョッキリゾウムシ科1種、イタヤハマキチョッキ
リ、ファウストハマキチョッキリ、クチナガ
チョッキリ、シプリチャッキリ。
ゾウムシ科24種（うちチョッキリゾウムシ科2種を含む）。
リノコフキゾウムシ、コフキゾウムシ、マツノ
トピゾウムシ、アオヒゲナガゾウムシ、ミヤマ
ヒゲポソウムシ、クロホククチャツドウムシ、
カシワククチャツドウムシ、スギリソウムシ、カ
キソウムシ、コシロクプウムシ＝ヒメシロコ
ブソウムシ、ヒメシロクヒブソウムシ＝ウィノソ
ウドウムシ、ヒロロクポソウムシ、ハズカ
ツオソウムシ、カツオソウムシ、フタキボソ
ウムシ、マツアラキソウムシ、フレイアア
キソウムシ＝クリアニアキソウムシ、オオアオ
ソウムシ、クロコブソウムシ、アカブソウムシ、
コクロアニアキソウムシ、ナガアニアキソ
ウムシ、マツキボソウムシ、オオソウムシ、コ
クソウムシ、トホソオソウムシ、シロオピ
アニアガゾウムシ、イチゴハナソウムシ、
イネソウムシ、カシアンガゾウムシ、オオア
シアナガゾウムシ、ホホジロシアナガゾウムシ、
マツシラホシゾウムシCryptothricidius insic-
lious＝マツノシラホシゾウムシ Shirahoshizo
insidiosus（Roelofs）、マドラフタクゾウムシ、マ
ダラアシゾウムシ、ミヤマシギゾウムシ、エゴ
シギゾウムシCurculio sigizio＝コナラシギゾウ
ムシ Curculio dentipes（Roelofs,1874）。

55. 中條道夫・高橋栄郎(1961) 兵庫県産ゾウム
シ類。
筆者が兵庫県で採取したゾウムシ科をまとめたもので、同定は中條道夫博士による。全国に採
集データ付き。
チョッキリソウムシ科9種。チャイロチョッキリ、ブドウハマキチョッキリ、ファウストハマキチョッキリ、ベニホシハマキチョッキリ＝ドロハマキチョッキリ、イタヤハマキチョッキリ、クロゲリリチョッキリ＝カシルリチョッキリ、コナライクビチョッキリ、オオケバカチョッキリ、ヒメケバカチョッキリ。

オトシブミ科15種。ウスモントシブミ、アカハラビルメオトシブミ＝ヒメフリオトシブミ、セアカヒメオトシブミ、オトシブミ、ムツモンオトシブミ、アカクビナガオトシブミ、ヒバガオトシブミ、ゴマダラオトシブミ、ヒメゴマダラオトシブミ、ヒメオトシブミ、ヒメフリオトシブミ、ケシルリオトシブミ、ラリオトシブミ、カシルリオトシブミ、ルイスナガオトシブミ。

ホソクチソウムシ科2種。ヒメケバカホソクチソウムシ、マメホソクチソウムシ Conapion (Pseudopiezotachela) collare (Schilsky,1906)＝Aption collare Schilsky。

ゾウムシ科58種(オサゾウムシ科3種を含む)。トゲアシソウムシ、シロコブソウムシ、クリヨクチブトソウムシ、ケプカチブトソウムシ、カシクラチブトソウムシ、クリオシクチブトソウムシ、オオツクチブトソウムシ、オオクチブトソウムシ、ミドリクチブトソウムシ、ミヤマヒゲボソウムシ、リンゴコフキソウムシ、コヒゲポソウムシ、ヒゲポソウムシ＝キュウシュウヒゲポソウムシ、マルヒョウタンソウムシ、ヒメシロコブソウムシ、コフキソウムシ、ヤサイソウムシ、ハベタコソウムシ、オオゴポソウムシ、ハジカツオソウムシ、ナガカツオソウムシ、カツオソウムシ、アイノカツオソウムシ、ツツソウムシ、マツキボソウムシ、ホホジロアシナガソウムシ、カシシナガソウムシ、オシロアシナガソウムシ、マツアナキソウムシ、ホソアニアキソウムシ、モンキアニアキソウムシ Hylobia exsculptus＝クリアニアキソウムシ Dyscreus exsculptus、アカクロブクロソウムシ、ミヤマクロソウムシ、ヒメクロカレキゾウムシ＝アトクロカレキゾウムシ、シロオピタクレキゾウ＝マダラカレキゾウムシ、クリーノタククリソウ Coleos ternus electus＝マダラクリクカツソウムシ Cryptorhynchus、アカクリカツソウムシ Cryptorhynchus rufescens (Roelofs,1875)＝ハスジカククソウムシ Cryptorhynchus fasciiculatus (Roelofs,1875)、マダラアシソウムシ、アシナガオトシブミ、マダラメカクソウムシ、オオクチカクソウムシ、ヒラセクモウ、アルマントゲソウムシ Cryptorhynchus harmandi＝Magenirinus、アカセジサソウムシ＝ツツジトゲソウムシ、ウロフツカドサソウ＝マルマメサソウムシ、キボシヒメソウ＝シラヒメソウムシ、ナツグミシギソウムシ、セギシギソウムシ、レロフモシギソウムシ、ウスイロシギソウムシ＝コララシギソウムシ、イチョハナソウ、リンゴノソウ Rhamphus pullus Hustache,1920＝R. pulicarius (Herbst,1795)、ケプカソウムシ＝ヤドリソウムシ、ムネシソミソウ、アカネソウ＝アカネソウモドキ。

オサゾウムシ科3種。トホシオサゾウムシ、オオシオツオサソウムシ、オオオツオサソウムシ。


神戸市内で撮影のソウムシの写真が示されている。

57. 長田高校生物研究会甲虫班(1962) 六甲山系甲虫類目録(II)。

Shida (10) : 11-12.

次のようにソウムシ類の記録がある。採集データはついているが和名だけである。全部神戸市内産。

ゾウムシ科16種(オサゾウムシ科のものも含む)。ハスジカツオソウムシ、ゴボウソウムシ、オオゾウムシ、ツツキボソウムシ、トホシオサソウムシ、オジロアシナガソウムシ、コララシギソウムシ、ヒメシロコブソウムシ、カツオソウムシ、クロボケトソウムシ、ウスモンカレキゾウムシ、マツアニアキソウムシ、キシジアシナガソウムシ、オジロアシナガソウムシ、マダラアシナガソウムシ、マツシラホソウムシ。

オトシブミ科(チョッキリソウムシ科のものも含む)。ゴマダラオトシブミ、ヒメクロオトシブミ、オトシブミ、アシナガオトシブミ、カシルリオトシブミ、イタヤハマキチョッキリ、クチ
ナガチョッキリ，モモチョッキリ。

58. 山本 華丸・高橋 塚（1962）永上郡昆虫目録
(昭和37年) 掲載(第1集)
1958年に発表された「永上郡昆虫目録」に追加し
てここに2科213種が記録されている。その中で
ゾウムシ類が次のように含まれている。
ヒゲナガゾウムシ科1種，シロヒゲナガゾウムシ。
オトシブミ科1種，セアカヒメオトシブミ。
チョッキリゾウムシ科4種，ハイイロチョッキリ，
コナライフチチョッキリ，クロキシツブチョッ
キリ，イタヤハマキチョッキリ。
ゾウムシ科26種，マルヒョウタンゾウムシ。
Crytorrhynchus obscurus Roelofs ？，ツバキシギゾ
ウムシ，サビクチチョウムシ＝サビクチュクト
ゾウムシ，キイイボゴケツガゾウムシ，カギア
シゾウムシ，クロコブゾウムシ，アシナガゾウ
ムシ，Bariniae ？，ヒメゾウムシ＝クワヒメゾウ
ムシ，レロチョッキシギゾウムシ，ウスモンシギ
ゾウムシ，タデノシラフクチュクトゾウムシ＝タ
デノクチュクトサルゾウムシ，クリイロクチュクト
ゾウムシ，カシワクチュクトゾウムシ，ハコベタ
コゾウムシ，マグラノミゾウムシ，Rhinoncus
jakoulevi Faust ギシギシクチュクトゾウムシ。
Ceuthorrhynchus ibukianus Hustache アオバネサ
ルゾウムシ，ウスモンカレキゾウムシ，アカイ
ネゾウムシ＝アカイネゾウムシ＝アカイネゾウ
ムシ，シロオピア
シナガゾウムシ，ミヤマタマゴソウムシ。

59. 山本 茂信（1962）妙見山資料館奉納：妙見山
昆虫採集目録
篠原郡八鹿町石原妙見山で採集された昆虫類の
目録で，採集は豊岡高等学校生物研究班による。次の
ゾウムシ類が記録されている。
イタヤハマキチョッキリ，ヒメコブオトシブミ，
オトゾウムシ，クロコブゾウムシ。

60. Konishi,M.(1963) On the Japanese spe-
cies of the Genus Dryophthorus Schöherr,
with description of two new Spesies (Coleo-
ptera, Curculionidae).
Ins. Mats.,25(2)：124—128.
日本産 Dryophthorus 属キツネゾウムシについ
ての研究で，2 新種の記載があるうち1 新種は
筆者採集の兵庫県産の標本も含まれる。

即ち，Dryophthorus japonicus Konishi 1ex.,
Nunobiki(神戸・市引)17.V.1959，T.Takahashi leg.,
スギキグサツシモウムシ。

61. 辻 啓介（1963）但馬扇ノ山甲虫目録(1)
兵庫農科大生物研究部誌(3)：24—47.
兵庫農科大生abricによる5年間にわたる扇ノ山の
甲虫調査の結果をまとめたものであり，此処に48
科294種と中根猛彦博士が扇ノ山で採集した甲虫
13科28種も同時に収録されている。ゾウムシ類は
次のごくと記録されている。
オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)7種，
ヤドカリチョッキリ，イタヤハマキチョッキリ，
ハギツルクピオトシブミ＝エゴツルクピオトシ
ブミ，アカシガナガオトシブミ，ピロウアシ
ナガオトシブミ＝ピロウアシガチョッキリ，
ヒメコブオトシブミ，カシミリオトシブミ，ヒ
ゲナガゾウムシ科2種，カオリヒゲナガゾウ
ムシ，シリジヒゲナガゾウ。
ゾウムシ科12種，アカヒョウタンゾウ，総目録
(1989)によると此処に示された Catapisson angus-
ticolis (Motschulskey,1868) は未名和名，分布は日
本のみで属についても疑問符がついているよく
わからない種である。
ミヤマシギゾウ，ゴボウソウ，オジロアシナガ
ソウ，ホホジロアシナガソウ，キスジアシナガ
ソウ，イチゴハナソウ，マツシラホソウ，Cryptorhynchidius insidiosus＝マツシラホソウゾ
ウムシ Shirahashio insidiosus，マルレョウタン
ソウ，フタキホソウムシ？，マツアニアキソ
ウムシ，ヤクシニアキソウムシ？。

62. 高橋 塚（1963）出石郡昆虫目録(第一報)
VITA（兵庫県立出石高等学校科学部生物班会
誌）(1)：1—34。
次ののようにゾウムシ類の記録がある。
オトシブミ科(チョッキリゾウムシ科も含む)6種，
ヒメコブカチョッキリ，ルイスアシナガオトシ
ブミ＝ルイスアシナガオトシブミ，ヒメコブ
オトシブミ，オトシブミ，ヒメクロオトシブミ，
ウスモンオトシブミ。
ミツギロゾウムシ科1種，ミツギロゾウムシ。
ゾウムシ科29種，リンゴコフキゾウムシ，オオク
チュクトゾウムシ，コサシワクチュクトゾウムシ，
アオヒゲナガゾウムシ，シロコブゾウムシ，ヒ
メシロコブゾウムシ、カギアシゾウムシ、ハスジカツオゾウムシ、カツオゾウムシ、シラクモゴボウゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、ホヒロアシナガゾウムシ、キジアシナガゾウムシ、カシクリアシナガゾウムシ、マツアアクサイゾウムシ、ガロアアアクサイゾウムシ、フライアアクサイゾウムシ Hylabius freyi Zumpt＝クリアアクサイゾウムシ Dysconus exsulcatus (Roelofs,1875)、チュウジョウアアクサイゾウムシ、ウスモノカレキゾウムシ、ホソクチカクシゾウムシ、クロクチプトサルゾウムシ、マツシラホシゾウムシ＝マツシラホシゾウムシ、トガアアシゾウムシ、ケナガスクリゾウムシ、ヒゲナガホシクチゾウムシ、ツバキンギゾウムシ、クリシギゾウムシ、イネゾウムシ、マツオキシゾウムシ、トホオソウムシ、コオロギゾウムシ、コクゾウムシ、プラジアアクサイゾウムシ？、トホオソウムシ。

63. 妙見山資料館 (1963) 妙見山生物資料館報 (第2号)
オオソウムシがゾウムシ類では記録されている。

64. 妙見山資料館 (1964) 妙見山資料館報 (第3巻)
イタヤハマキチョッキリ、ヒメコブオトシブミ、オオソウムシの3種が妙見山産甲虫として記録されている。

65. 高橋 匡 (1965) 出石郡昆虫目録 (第2報)
VITA (2) : 1-6。
甲虫類は16科51種記録されている。ゾウムシ類は次のように記録されている。
セカチョッキリ、ムツモンオトシブミ、フライアアクサイゾウ＝クリアアクサイゾウムシ、フタキボシゾウムシ、マメホシクチゾウムシ。

66. 西脇自然同好会昆虫班 (1965) 西脇・多可・八代郡昆虫目録。
西脇自然同好会報 1 (1) : 50-58。
17科150種記録されている。データはついているが和名だけである。ゾウムシ類の記録は次のとおりである。
コフキボシゾウムシ、ヒメシロコブゾウムシ、ハスジカツオゾウムシ、カツオゾウムシ、マツキボゾウムシ、オジロアシナガゾウムシ、コナラシギゾウムシ、ヒメコブオトシブミ、オトシブミ、ウスアカオトシブミ、ヒメクロオトシブミ、ハギツルクヒトシブミ＝ハギリオトシブミ、モモチョッキリ。

67. 高橋 匡 (1986) 扇ノ山の昆虫 (特に甲虫について)。
Natura (23) : 14。
次のゾウムシの記録が含まれる。
ナガカツオゾウムシ、オオテカクシゾウムシ。

Pp.28-30. Enedreytes gotoi Shibata, デビキーボソヒゲナガゾウムシ、Sasabe, Nose Hyogo Pref. なる新種記載あり。

69. 仲井啓郎 (1969) 丹波における栗果の昆虫相。
兵庫生 (6) : 65-72。
丹波郡南湖町佐治の45アールの栗果で1967年4月から1967年12月までの間、28回採集調査をした結果、昆虫類9目62科131種がまとめられている。ゾウムシ類は次のように記録がある。
オトシブミ、チアイロチョッキリ、ゴマダオトシブミ、クロホソチョッキリ、クロトプチョッキリ、マルムネチョッキリ、シリトプチョッキリ、コナライクビチョッキリ、クリシギゾウムシ、クロホシクチプトゾウムシ、オオクチプトゾウムシ、カシクチプトゾウムシ。

70. 佐々木基之 (1989) 甲陵中学校付近の甲虫類。
甲陵生 (4) : 8-14。
甲陵中学校 (西宮市上甲東町) 付近で採集した29科156種の目録。和名とデータはついていないが各種の状況説明がついている。ゾウムシ類は次のとおり記録されている。
シロコブゾウムシ、ハスジカツオゾウムシ、オオソウムシ、オジロアシナガゾウムシ、イネゾウムシ、マツシラホシゾウムシ、トホオサソウムシ、ヒメクロオトシブミ、カシルリオトシブミ、ヤドカリチョッキリ、モモチョッキリ。
(TAKAHASHI TOSHIO 神戸市兵庫区水戸町1-44)